

I 目的

大分県のキャリア教育について、現状を把握するとともに実践事例を収集及び周知することで、キャリア教育に関する県教育センターにおける研修の充実を図り、大分県の更なるキャリア教育の推進に資する。

II 結果

※1年次はキャリア教育に関する大分県の実態を把握するため、初任者研修から中堅教諭等資質向上研修の受講者を対象にアンケート調査を行った。

○キャリア教育の理解度について

- ・目的・意義、「基礎的・汎用的能力」の肯定的な理解度は、全体で見ると半数を超えているものの、十分に理解が及んでいるとは言い難い状況である。

○キャリアノートについて

- ・目的・意義の肯定的な理解度は、校種間で差が見られ40~80%程度であるが、全体で見ると十分に理解が及んでいるとは言い難い状況である。
- ・大分県が配布しているキャリアノートを活用している学校は、小学校96%、中学校89%、高等学校52%であった。
- ・最も多かった活用方法は、各校種とも「学期末、学年末などに記録を振り返るための時間を設けている」であった。
- ・引き継ぎについて、学年間、校種間ともに小・中学校と高等学校で大きな差が見られた(右図参照)。

○学級活動・ホームルーム活動(3)について

- ・学級活動・ホームルーム活動(3)に関する授業を実践している教員は、各校種とも70~80%と高いものの、内容項目間でばらつきがある。
- ・学級活動・ホームルーム活動(3)に関する授業の具体的なイメージを持つことができていない教員が一定割合いることが考えられる。

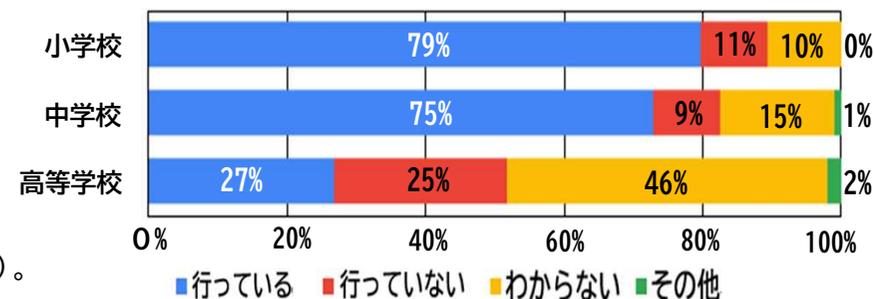
○学校組織としてのキャリア教育の取組について

- ・全体計画や年間指導計画がある学校は、小学校70%程度、中学校65%程度、高等学校55%程度であり、校務分掌組織が機能している学校は、小学校66%、中学校63%、高等学校76%であった。

○キャリア教育の研修意欲について

- ・キャリア教育に関する研修への受講意欲は、各校種とも90%を超えるほど高いニーズがあることが分かった。

図 あなたの学校では、キャリアノートの学年間での引き継ぎを行っていますか
(n:小408、中253、高201)



III まとめ

●キャリア教育について十分な理解を図ること

理解度が高くなるにつれて、キャリア教育の視点を踏まえた実践の意識が高くなる傾向があるため、理解を深めることにより各学校のキャリア教育の充実につながることを期待できる。

●学級活動・ホームルーム活動(3)等のキャリア教育に関する具体的な実践事例の収集及び周知を行うこと

キャリア教育の大切さは分かっているが、どのように実践していけばよいか具体的なイメージを持つことができていない状況が考えられるため、キャリア教育に関する実践事例を収集し周知していくことでキャリア教育の充実を図る。

●県教育センターの研修の充実を図ること

令和5年度テーマ別研修に「キャリア教育研修-学年間・校種間の連携-」を新設し、キャリア教育の充実に資する。

